療養場所の違いに応じた認知症者のエンドオブライフケア充実に向けての調査研究
－COVID-19流行の影響も踏まえて－

研究分担者　会田　薫子　東京大学大学院人文社会系研究科　特任教授

研究要旨

研究要旨 認知症を有しつつエンドオブライフを生きる人の意向を尊重した意思決定支援のためには、まず、本人が経験している切実な苦痛を把握し、その除去・緩和を図ることが基本であり、それによって初めて臨床倫理的に適切なあり方につながる。

A．研究目的

次第に悪化する認知症を有しつつ、人生の最終段階を生きる患者の言語化し難い苦痛を少しでも把握し、苦痛の軽減を図るための医療とケアのあり方を探求し、適切な苦痛緩和にもとづき、本人の意向を尊重するための意思決定支援のあり方を探る。

B．研究方法

文献研究および当講座の臨床倫理プロジェクトに関連する現場の医療・ケア従事者とのZoom会議による意見交換。

（倫理面への配慮）

本研究は人を対象とするものはなく、その点における倫理面への配慮は不要。

C．研究結果

言語化が困難な段階において本人の意向を尊重するためには、まず、疼痛など苦痛の原因を可能な限り除去・緩和することが重要であり、それによってはじめて、本人の意向の尊重の可能性が生まれる。

D．考察

身体的な痛みおよび心理社会的な苦痛など、本人にとっての切実な苦痛をまず除去・緩和することが肝心である。本人が言語化困難な状態であるからこそ緩和医療・ケアが重要性を増す。

E．結論

臨床倫理的に適切な意思決定支援のためにも、本人の苦痛緩和がまず重要であり、バイタルサインの変化や苦痛表情から苦痛を察知し苦痛緩和に努めることが求められている。

F．研究発表

1.　論文発表

1)　会田薫子、「認知症のエンドオブライフ・ケア ―ACP のあり方」、『老年期認知症研究会誌』、2021;23(10):　58-62.

2.　学会発表

1)会田薫子、「『新型コロナウイルス感染　症流行期において高齢者が最善の医療・ケアを受けるための日本老年医学会からの提言 ―ACP 実施のタイミングを考える』の意義」、第 63 回日本老年医学会学術集会、WEB 講演,2021.6.12.

2)会田薫子、「認知症のエンドオブライフ・ケア」、第 23 回近畿老年期認知症研究会、WEB 講演、2021.10.23.

G．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得　　該当なし
2. 実用新案登録　　該当なし
3. その他　　該当なし